

次世代海洋人材の育成 —海と人が共生する未来へ—

海洋の持続的な利用を考える上で、海離れが進む我が国では人材育成は急務です。海洋の科学、技術、産業、環境を理解した指導者の育成やプログラムの開発および普及は重要であり、特に実際の地域と連携した実践的プログラムと人材育成が求められています。また、世界的な舞台で日本やアジアの海洋問題を理解し、発信できる国際海洋法に関する専門家育成も有益です。そのため、国際的なプログラム(国連海洋科学の10年)やこれまで推進してきたプログラム(世界海事大学笹川奨学事業、海洋教育パイオニアスクール等)を通じた次世代海洋人材の育成や、地域課題解決のためのネットワーク構築も重要な課題として取り組んでいます。

海洋教育パイオニアスクールプログラム The Ocean Education Pioneer School Program

海洋教育パイオニアスクールプログラム(以下 PSP)は、全国の幼児教育施設、小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校(3年生まで)を対象に、2016年から開始された日本財団・笹川平和財団海洋政策研究所の共催する助成事業です。学校や教育委員会等に対する支援を通じて、学校での海洋教育の面的な広がりや質的な向上を図ることを目的としています。

これまでの広島県内のPSP採択校(2016-2026年度)カッコ内は採択年度

三原市立木原小学校 (2016~2021, 2023, 2024)	江田島市立中町小学校 (2024-2026)	呉市立下蒲刈中学校 (2018)
大崎上島町立東野小学校 (2016, 2018, 2019)	江田島市立能美中学校 (2024-2026)	呉市立警固屋中学校 (2020, 2021)
広島市立中野東小学校 (2018, 2019)	江田島市立大古小学校 (2025, 2026)	福山市立鞆の浦学園(2020~2022)
広島市立吉島東小学校 (2025)	江田島市立鹿川小学校 (2025, 2026)	広島県立広島敬智学園中学校 (2021)
呉市立蒲刈小学校 (2018, 2019)	江田島市立江田島中学校 (2026)	三次市立三和中学校 (2019, 2020)
呉市立下蒲刈小学校 (2018)	江田島市立大柿中学校 (2026)	山陽学園高等部 (2020)
呉市立豊小学校 (2018)	呉市立豊浜中学校 (2016~2018)	広島県立首戸高等学校 (2022, 2023)
江田島市立三高小学校 (2023, 2024)	呉市立広南中学校 (2019~2021)	広島商船高等専門学校 (2019~2023)
江田島市立江田島小学校 (2024, 2026)	呉市立蒲刈中学校 (2018, 2019)	シンギュラリティ高等学校 (2025)
江田島市立切串小学校 (2016)		

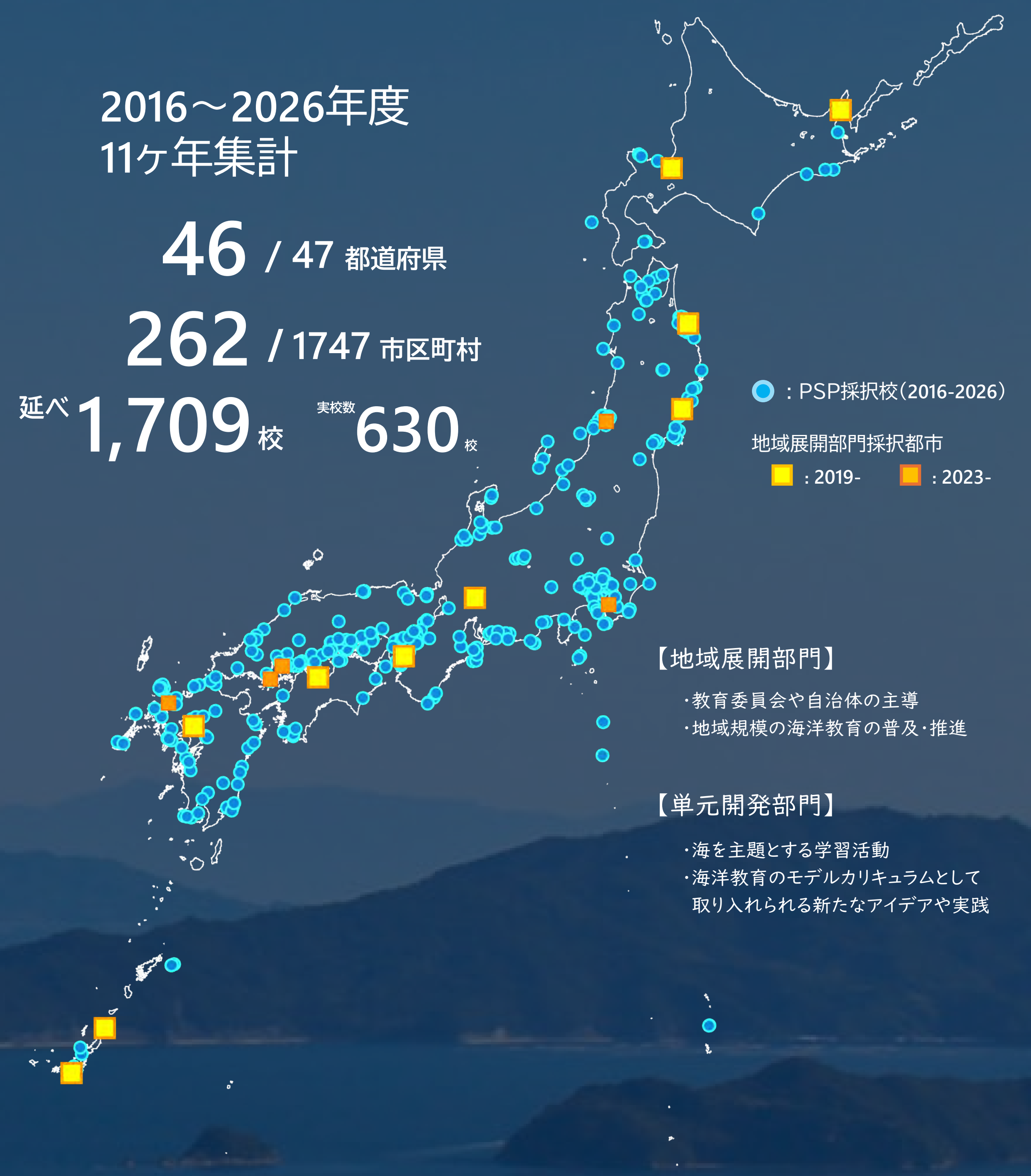
江田島市立三高小学校 (2023年度)



三原市立木原小学校 (2023年度)



2016~2026年度
11ヶ年集計
46 / 47 都道府県
262 / 1747 市区町村
延べ 1,709 校 実校数 630 校



海洋リテラシー普及に向けた国際連携

国連のIOC-UNESCOでは、国連海洋科学の10年の取組の一つとして、海洋の専門的な人材育成と共に、海洋リテラシーの世界的な普及を目指しています。

欧米諸国を中心にBlue School Global Networkが大西洋沿岸国を中心に展開されており、現在16カ国が参加しています。教科横断的な学習内容で構成されたカリキュラムに取り組み、地域との連携も必須となっています。学校間で実践や課題を世界的に共有することで、海洋リテラシーの理解度のギャップを埋めていこうというねらいがあります。

一方アジア各国でも、様々な海洋リテラシー普及の取組が進められています。海洋教育の重点校の指定や、教科書の配布、一般市民に向けたキャンペーンなど、国の実情に応じて進められています。言語と文化の多様性に富む地域性から、同じ物事を共通に理解する難しさはありますが、海洋を大切にしようという認識は一致しています。

PSPをはじめとする日本国内の海洋教育では、地域の海の自然環境や産業、海との繋がりをもつ伝統文化を中心に学ぶ取組が多く見受けられます。海洋リテラシーの重要原理6. が示す、海と人の日常的な繋がりを知る学びは、自然としての海洋を理解するだけでなく、地域の一部としてより身近な存在を理解することに繋がっています。

【海洋リテラシーの7つの重要原理】

1. 地球には、多くの特徴を持つひとつの大きな海洋がある。
2. 海洋と、海洋中の生命が、地球の特徴を形作る。
3. 海洋は、天候と気候に大きな影響を与えている。
4. 海洋によって、地球は生物が息できる場所になっている。
5. 海洋は、素晴らしい生命の多様性と生態系を支えている。
6. 海洋と人間は、互いに分かちがたい関係にある。
7. 海洋は、今もなお大部分が探究されていない。



OPRI 海洋政策研究所
SASAKAWA PEACE FOUNDATION



https://www.spf.org/units_opri/



@OPRI_SPF

